【様式】

平成３０年度　学校マネジメントシート

　 学校名（　桑名西高等学校　）

１　目指す姿

Ⅰ「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

　Ⅰ－１　防災対策

**Ⅰ－１－１　防災対策の推進**

Ⅰ－１－２　治山・治水・海岸保全対策の推進

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (1)目指す学校像 | | ○　自らの意志で学び、より高みに向かおうと挑戦する意欲にあふれた学校  ○　協働と交流を通して、たくましく生きる力と他者への思いやりが育つ学校 |
| (2) | 育みたい  児童生徒像 | ○　自分の興味関心や適性、働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる。  ○　授業を大切にするとともに、各教科の学習活動に自発的・協同的に参加し、知識と技能、思考力・判断力・表現力を育む努力ができる。  ○ 部活動との両立等、時間管理を意識して家庭学習習慣を定着すること、進路実現に向けて自分自身の学習スタイルを確立することができる。  ○　基本的な生活習慣等、人としてのあり方生き方のすべてにつながる土台となる部分が定着し、挨拶や交通ルールが遵守でき、他者への配慮ができる。  ○　ホームルーム活動や部活動を自主的・積極的に運営できる。 |
| ありたい  教職員像 | ○　目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、生徒に関する情報や校務運営の情報が十分に共有され互いに協力し合っている。  ○　授業をはじめとしたすべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めている。  ○　普通科の理念（共通性を重視し、幅広い教養を身につける）を生かし、教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場を目指している。 |

２ 現状認識

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (1)学校の価値を  提供する相手とそこからの要求・期待 | | 生徒：基礎基本の内容から様々な進路希望に対応した専門分野に関する内容まで、興味関心を喚起する授業。安心してのびのびと豊かな学校生活を送るための生活環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かい指導・支援。  保護者：学力伸長と進路希望実現に向けた学習指導・進路指導・生徒指導の充実。学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。のびのびと豊かな学校生活を送るための安全・安心な教育環境。  地域：学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。 | |
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| 家庭：学力の伸長および進路希望実現や、学校行事や部活動をとおした豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。  中学校：本校の教育活動の特色や生徒の学校生活の様子、卒業生の進路状況などの情報提供。  地域：授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした地域に開かれた教育活動。 | 家庭：学校教育に対する理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた理解と支援。  中学校：中・高校生の基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。個々の生徒の教育活動充実に向けた様々な情報交換と協力・支援。  地域：学校の教育活動に対する協力。将来の地域社会の担い手として生徒が自らの生き方や働き方を考えるための情報提供や協力・支援。 |
| (3)前年度の学校  関係者評価等 | | ・若年層が地元に残らないと地域が衰退していくことから、学校・家庭・地域の連携を一層密にし、地域のボランティア活動に積極的に関わってはどうか。  ・高大接続システム改革により大学入試が大きく変わる時期を迎えており、生徒の発表力や記述力のスキルアップを強化する必要がある。  ・各職場で働き方改革として有給休暇を計画的に取得する提案が出されており、職員の意識改革をしていく必要がある。 | |
| (4)現状と課題 | 教育  活動 | ・ 社会につながる力の育成に向け、知・徳・体のバランスがとれた、自ら挑戦する心を持って自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成を目指すことが求められている。  ・ 近年難関大学への進学志向が高まっており、AO・推薦入試をはじめ、センター試験利用や一般入試によって自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。  ・ 第一志望合格に向けて粘り強く学習して国公立大学を目指す指導を強化しており、地域の中堅進学校として授業力向上や進路指導体制の改善が必要である。 | |
| 学校  運営等 | ・ 今後の社会で求められる力は自分の意思や判断で行動する主体性や他者と協働しながら互いに支え合う社会性に裏打ちされた力であり、総合的な学習の時間の在り方を検証し、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図る必要がある。  ・ 建物の構造から居室が分散し、各学年や分掌、教科を越えた横断的な取組について話し合う機会が制限されているため、教職員間での情報共有や意識統一を円滑に図るための工夫が必要である。  ・ 日頃から教職員間の対話を重視し、情報共有の方法や会議の運営について工夫改善を図り、「チーム桑西」として多忙化の解消と組織力向上に取り組むことが重要である。 | |

３ 中長期的な重点目標

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動 | ・ 個々の生徒が保護者や地域の期待に応えながら高い目標を設定し、自ら学ぶ姿勢を身につけ、自己の可能性を伸ばすことができる学習活動を推進する。  ・ 新学習指導要領や高大接続改革の答申を踏まえて、生徒の進路希望実現に必要な読解力・文章力・表現力等が身につけられるよう、教職員一人ひとりが指導力の向上を図る。  ・ 高校生活を通して主体的に行動することができるようになり、社会性、協調性、責任感、創造力、企画力、コミュニケーション力、忍耐力などを身につけ、心身共にたくましく他者への共感ができる生徒を育成する。 |
| 学校運営等 | ・ 教科指導の活性化を目指して指導内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学力向上に向けた教科横断的な取り組みや、学年・分掌間の連携を密にして、新たな企画や改善策を積極的に提案し合う体制を構築する。  ・ あらゆる場面で生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、これまで教科や学年を中心に進めてきた授業力向上の取り組みを学校全体で行い、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図るよう検討する。  ・ 効率のよい学校運営を目指すために学校全体で目的意識の共有化を図り、教職員が意欲的に業務に取り組んで組織力を向上させるとともに、地域にとって有為な人材を育成するための最適な教育環境を創造するために、地域の多様な関係者と連携する。 |

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

　　　　また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 学習指導の充実 | 1. すべての授業においてアクティブ・ラーニング型授業に取り組むとともに、授業やテストでの発問を創意工夫し、生徒が主体的・協働的に学ぶ場面を一層増やす。 2. 入学時の初期指導をはじめ、各学年で定期的に実施する学習ガイダンス、家庭学習（週末課題）や課外授業（５教科）をとおして、生徒が主体的に学べるようにする。 3. 各教科と連携し、図書館を活用した学びを促す。   【活動指標】  ・ 全ての授業で、課題の発見・解決や習得・活用・探究の学習プロセスを意識した授業を実施。  ・ 図書室における図書便り・新刊案内などの発行（年１１回）や月１回以上の特設コーナーの設置。  【成果指標】  ・ 主体的に授業に参加したと回答した生徒の割合　８割 | （年度末および適宜記載） | ◎  ※ |
| キャリア教育の充実 | 1. 授業や総合的な学習の時間をとおして、自己のあり方を考え、社会の中で自分をよりよく生かす道を探れるよう、学年進行で探求学習活動の検討を進め充実を図る。 2. 将来社会の一員として期待される人間形成を目指すために、「人権・環境・平和」等についての学習を深める。 3. センター試験や私大一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学にける推薦入試の積極的な活用を図る。   【活動指標】  ・　進路希望実現に向けた個人面談を年4回以上実施。  ・探求学習プロジェクトを組織し学年別に探求活動を実施。  ・ 大学進学希望者のセンター試験・一般入試受験を促進。  【成果指標】  ・ 自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合　８割 |  | ◎  ※ |
| 生徒指導の充実 | 1. 生徒自らが時間を守る大切さ、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組む。 2. 生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をし合える状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、生徒相互の人間関係をはぐくむ。   【活動指標】  ・ いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全（特に自転車事故の防止）、ネットモラル等の講演会の実施。  ・ 年間を通した登下校指導の実施。  【成果指標】  ・ 基本的な生活習慣やマナーを身に付け、自ら進んで挨拶をすることができると回答した生徒の割合　８割 |  | ◎ |
| 生徒の主体的な活動の充実 | 1. ホームルーム活動や生徒会活動を充実し、生徒議会や生徒総会をとおして学校行事や学校生活に関する話し合いを活発に行う。 2. 部活動をとおして精神面や体力面を鍛え、競技力の向上とともに粘り強く最後までやりぬく姿勢や人間関係を学び、それぞれが最大の成果を発揮できるようにする。 3. 主権者として社会の中で自立し、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につける。   【活動指標】  ・ 授業及び総合的な学習の時間を活用した「１８歳選挙権」関連講座の実施。  ・ ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、教育委員会や地域と連携した活動の活性化。  【成果指標】  ・ 高校生活をとおして人間として成長したと回答した生徒の割合　８割 |  | ◎ |
| 心と体の健康の充実 | 1. 高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理力をつける。 2. 早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・教育相談専門員との連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。   【活動指標】  ・「保健だより」を年間１２回以上発行、全校生徒対象講演会を年１回実施。教育相談の充実に向けた教員研修実施。  ・ 学校部活動運営方針と部活動指導計画の策定及び部活動休養日を週１日設定。  【成果指標】  ・ 自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合　８割 |  | ◎ |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載） | | | |

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 研修による資質向上の取組 | 1. 教科会の定例化による授業内容・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。 2. 校内研修会の充実およびベンチマーキングや外部研修での成果を全職員で共有する。   【活動指標】  ・ 授業力向上プロジェクトを組織し研究授業やミーティングを定期的に実施。  ・ 教職員研修会を各種テーマで年6回（１回は指導主事訪問）実施。  ・ 相互授業見学（今年度から教科の枠を超えて実施）を１・２学期に１週間ずつ実施。  【成果指標】  ・ 授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合　８割 | （年度末および適宜記載） | ◎  ※ |
| 組織運営の向上 | 1. 日頃から教職員間の対話を重視するとともに、打合せや委員会・会議の場をとおし、生徒に関する情報や校務運営の情報共有を密にする。 2. 学年・分掌の協力体制をつくり、進路指導や生徒指導、教育相談の情報共有を活発に行う。 3. 「運営委員会」「桑西改革委員会」「学校マネジメントシステム委員会」において、今後の組織運営及び入試制度や進路指導の在り方について検証する。   【活動指標】  ・ 桑西改革委員会等を開催し、さらなる学力育成に向け本校の現状分析と諸改革を検討。  ・ 組織運営の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案。  【成果指標】  ・ 校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合　６割 |  | ◎ |
| 安全・安心な教育環境の構築 | 1. いじめや体罰がなく危機管理が充実した安全・安心な学校を目指し、日頃から生徒理解と迅速かつ適切な対応を心がけるとともに、積極的な情報発信を行う。 2. 現在および将来に直面する災害に対して、適切な意志決定や行動選択ができるようにするため、地域と連携して防災教育の充実と防災意識の向上を図る。   【活動指標】  ・ HPやきずなネット、学年通信等による積極的情報発信。  ・ 防災訓練や防災研修会を年２回実施。  【成果指標】  ・ 情報発信が適切であったと回答した保護者の割合　８割 |  | ◎ |
| 地域との連携 | 1. 授業や学校行事の公開、学校施設の地域開放、協働して行う挨拶運動や美化活動などをとおして、保護者や地域との連携を一層深める。 2. 地域の信頼に応え、人材育成を地域とともに推進していくために、生徒の様子や具体的な教育内容・方針についての情報発信を強化する。   【活動指標】  ・　学校が企画して実施する地域連携行事の拡充。  ・ 久米地区や桑名市をはじめ、地域から参加要請があった各種行事への積極的参加。  【成果指標】  ・ 年１回以上地域（学校周辺・自宅周辺）の活動に参加したと回答した生徒の割合　７割  ・ 学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合　８割 |  | ◎ |
| 働きやすい職場づくり | 1. 会議時間の短縮などにより引き続き労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。 2. 互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするともに、教職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由闊達に意見を言い合える職場環境づくりに努める。   【活動指標】  ・ 定時退校（月１回）や有給休暇の取得を促すための声かけや教職員が親睦を深める機会の充実。  ・本校に適した期間・場所でのオフサイトミーティング実施。  【成果指標】  ・ 自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合　７割  ・ 有給休暇の取得　年間一人平均１６日以上  ・ 時間外労働時間80時間越え職員の削減に努め、　週あたり一人平均１時間削減を目標 |  | ◎  ※ |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載） | | | |

５　学校関係者評価

|  |  |
| --- | --- |
| 明らかになった  改善課題と次への取組方向 | （年度末に記載） |

６　次年度に向けた改善策

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動についての改善策 | （年度末に記載） |
| 学校運営についての改善策 | （年度末に記載） |